

やましん歌壇拙掲載歌：第2回

短歌	平成26年3月～平成31年4月		令和1年5月～	
	掲載短歌	<p>H26-4：誰そ彼が黄昏となる万葉の 世界にひたりひとを想えり（*）：阿部京子選</p> <p>H26-4：精検を待つ間の長さ息苦し 交わす目線に共感覚ゆ：高橋光義選</p>	<p>R1-6：石蹴りの筋跡避けて草むしる 桜の蕾ほころぶ公園：阿部京子選（筆頭三席） 選評：自身の、幼いころの思い出が脳裏を過って生まれた心配りであろう。ごはん時に遊びを止めて帰った記憶。明日の続きの為に「避けて」が効いた。</p> <p>R1-6：山里の田舎芝居の幕の下り 夜の帳（とぼり）に桜舞い散る（*）：大滝 保選</p>	
写真短歌（共同制作含む）	<p>（*）</p>  <p>写真撮影地：山形市 短歌：黒沼貞志 平成26年4月7日付け「やましん歌壇」拙掲載（阿部京子選）</p>	 <p>写真撮影地：台渡町高玉 短歌：令和元年6月11日付け「やましん歌壇」拙掲載（大滝 保選）</p>		
作品	短歌 86首（H26-3～H31-4）	短歌 93首（R1-5～R6-9 まで）		
	写真短歌 38作品（同上：共同制作を含む）	写真短歌 64作品（同上：共同制作を含む）		